[事案 29-211] 転換契約無効請求

・平成 30 年 4 月 12 日 裁定終了

<事案の概要>

希望と異なる契約をさせられたことを理由に、転換の無効を求めて申立てのあったもの。

<申立人の主張>

昭和 59 年 2 月に契約した養老保険について、平成 3 年 12 月に終身保険に転換したが、以下の理由により、転換を無効とし、既払込保険料を返還してほしい。

- (1)慢性的な動脈硬化や記憶痴呆障害等により、判断力が低下していた。
- (2)募集人が具体的な保障内容の説明をしなかったことから、転換前後で保障内容が違うことを理解できなかった。
- (3)転換時、61 歳であったことから、家族の同席を求めるべきであった。

<保険会社の主張>

募集人は、設計書等の募集資料を用いて、転換の内容を具体的に説明していることから、申立人の請求に応じることはできない。

<裁定の概要>

1. 裁定手続

裁定審査会は、当事者から提出された書面にもとづく審理の他、申立人の主張等を把握するため、申立人、申立人の子および募集人に対して事情聴取を行った。

2. 裁定結果

上記手続の結果、契約時における申立人の判断力の低下や募集人の説明不足等による契約転換の無効は認められず、その他保険会社に指摘すべき特段の個別事情も見出せないことから、和解による解決の見込みがないと判断して、手続を終了した。